**大課題名：(再) 醸造用ブドウ品種・系統の選抜（R2 年～）**
**小課題名：(新) 山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜　～果実特性の解明～（R2～4 年）（重点化課題候補）**

## 背景とねらい

○これまでに、欧州系醸造用品種（以下、欧州系品種）のうち、「メルロ」、「カベルネ・ソーヴィニヨン」、「シャルドネ」などの主要品種について、本県における果実・ワイン特性を解明した（H30 年度成果情報）。
○しかし、成熟期が高温となる本県の気象環境では、これらの品種は、地域によっては着色不良や急激な酸の低下などにより、高品質かつ特色あるワインの生産が難しい。
○一方、長野県では「メルロ」や「シャルドネ」、山形県では「カベルネ・ソーヴィニヨン」の産地化が進められており、本県でも新たなフラッグシップとなるような欧州系品種を探索し、対抗していく必要がある。
○そこで、世界的に認知されており、南仏やスペインなどの比較的温暖な地域で栽培されている欧州系品種について、本県における栽培・果実特性を解明する。

【課題の要請元】
山梨県ワイン酒造組合、果樹・6 次産業振興課

## 試験内容

**山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜～果実特性の解明～**

＜検討品種＞
白ワイン用；「アルバリーニョ」、「プティ・マンサン」
赤ワイン用；「シラー」2 系統、「テンプラニーリョ」、「ムールヴェードル」、「タナ」

(1) 品種別の栽培・果実特性の解明（R2～4）
場内圃場（標高 440m）において、栽培試験を行い、栽培・果実特性を検討する。
栽培特性：生育ステージ、収量、病害虫発生程度など
果実特性：果房重、糖度、酸含量、アントシアニン量など

(2) 品種別の温度適応性の解明（R2～4）
将来的な温暖化を見据え、高温条件下での着色程度（アントシアニン量）や酸含量を確認するため、恒温器内で果粒培養を行い、検討する。また、myb 遺伝子型とアントシアニン量や組成との関連性を検討する。

(3) 地域適応性の把握（R3～4）
明野試験地（標高 710m）や現地ワイナリーの圃場において、栽培・果実特性の栽培地による違いを確認する。また、香り成分やタンニンなどの違いをあわせて検討する。

## 期待される効果

○本県における栽培特性および果実品質を明らかにすることで、ワインメーカーや栽培者が品種を導入する際の参考資料となる。

○本県の気象環境に適し、新たなフラッグシップとなる欧州系品種が選抜され、県内の生産量が拡大する。

○高品質かつ特色あるワインが生産でき、県産ワインのブランド力強化や需要拡大が期待される。

【行政施策上の位置づけ】
山梨県総合計画（暫定計画）
戦略1：攻めの「やまなし」成長戦略
「ワイン産業と醸造用ぶどう生産の振興」